

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

研究分担者：北風 政史（国立循環器病研究センター・臨床研究部）

特発性心筋症患者重症化危険因子と予後関連因子に関する研究

研究要旨

本研究班は、1974年に旧厚生省特定疾患調査研究班として、特発性心筋症の疫学・病因・診断・治療を明らかにすべく設立され、その後約40年間継続して本領域での進歩・発展に大きく貢献してきた。本研究は、心筋症の実態を把握し、日本循環器学会、日本心不全学会と連携し診断基準や診療ガイドラインの確立をめざし、研究成果を広く診療へ普及し、医療水準の向上を図ることを目的とした。研究班による全国規模での心筋症のレジストリー、特定疾患登録システムの確立を推進準備し、心筋症をターゲットとした登録観察研究であるサブグループ研究を開始し、登録をすすめた。また、研究成果の社会への還元として、ホームページ公開や市民公開講座を行った

A. 研究目的

心筋症の中でも、治療法が確立していない肥大大心筋症拡張相のその病態と治療法の実態を調査し、さらにそれらの症例の前向き観察研究を行う。かかる試みにより、我が国における肥大大心筋症拡張相の実態が明らかになり、さらにその有用な治療法が示唆されるものと期待される。

B. 研究方法

院内における慢性心不全、特に肥大大心筋症拡張相の臨床パラメータを集積する。

（倫理面への配慮）

院内倫理委員会にはかりその倫理的妥当性の承認をうけ、その範囲において観察研究を行う。

C. 研究結果

現在データを集積しており、その結果から、慢性心不全の予後に関係する因子を LANP 法にてデータマイニングした。

D. 考察

心不全・心筋症の中でも、治療法が確立していない肥大大心筋症拡張相をターゲットにその病態と治療法の実態を調査し、さらにそれらの症例の前向き観察研究を行っているところである。強心薬の使用や、利尿薬の使用がその予後に関係することが明らかになってきた。

E. 結論

心筋症の中でも、治療法が確立していない肥大大心筋症拡張相のその病態と治療法の実態を調査し、さらにそれらの症例の前向き観察研究を行った。その予後を規定する因子がデータマイニングにて明らかになってきた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 学会発表

1. 論文発表

著書、総説

1) Miki Imazu, Hiroyuki Takahama, Makoto Amaki, Yasuo Sugano, Takahiro Ohara, Takuya Hasegawa, Hideaki Kanzaki, Toshihisa Anzai, Naoki Mochizuki, Hiroshi Asanuma, Masanori Asakura, and Masafumi Kitakaze. Use of serum fibroblast growth factor 23 vs. plasma brain natriuretic peptide levels in assessing the pathophysiology of patients with heart failure. Hypertension Res 40(2),181-188, 2016

2) Hiroki Fukuda, Hideaki Suwa, Atsushi Nakano, Mari Sakamoto, Miki Imazu, Takuya Hasegawa, Hiroyuki Takahama, Makoto Amaki, Hideaki Kanzaki, Toshihisa Anzai, Naoki Mochizuki, Akira Ishii, Hiroshi Asanuma, Masanori Asakura, Takashi Washio and Masafumi Kitakaze. Non-linear equation using plasma brain natriuretic peptide levels to predict cardiovascular outcomes in patients with heart failure. Scientific Reports 6:37073, 2016

3) 金智隆、北風政史

慢性心不全に立ち向かうために知っておくべき手法—情報工学が教えてくれること—
Heart View 20(8):52-56, 2016

2. 学会発表

1) 国際学会

Mari Sakamoto, Takuya Hasegawa, Masanori Asakura, Seiji Takashio, Makoto Amaki, Hiroyuki Takahama, Takahiro Ohara, Yasuo Sugano, Hideaki Kanzaki, Toshihisa Anzai, Masafumi Kitakaze

Tight linkage between increases in leftatrium volume and augmented right

ventricular function of the cohort subjects without overt heart failure in Japan.

ESC 2016 (2016/8/27-31, Rome, Italy)

2) 国内学会

Masafumi Kitakaze

循環器学における臨床研究を科学する
第64回日本心臓病学会学術集会（平成28年9月23-25日，東京）

Hiroki Fukuda, Masanori Asakura, Akira Ishii, Takashi Washio, Masafumi Kitakaze

How to mathematize the relationship between the clinical factors and outcomes in patients with heart failure- Proposal of precise medicine.

第81回日本循環器学会学術集会（平成29年3月17-19日、金沢）

H. 知的所有権の出願・登録状況(予定も含む)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし